

足羽川桜づつみ協議会報告書資料



協議結果による堤防下からの景観イメージ（植栽 10 年後）

平成 1 9 年 9 月

足 羽 川 桜 づ つ み 協 議 会

足羽川桜づつみ協議概要報告書

< 目 次 >

1. 計画検討の経緯	1
2. 植栽計画について	3
3. 施設計画について	5
4. 景観変化のイメージ	6
5. 開花時期別のイメージ	7
6. 配置計画（案）	8
7. 維持管理について	11
8. 撤去する桜の有効利用について	13
9. 今後に向けて	14

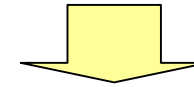
1. 計画検討の経緯 (1)

本協議会においては、足羽川河川環境整備検討会の提言をもとに、別途企画された地元説明会・ワークショップ、アンケート・フォーラム等から、沿川住民と一般住民の意見を把握し、実施計画を検討した。

整備する桜堤は、多様性のある桜の植栽により、新しい魅力を創出する案にまとまった。

足羽川河川環境整備検討会

- 移植を基本にトンネル状・一列植栽案
- 多様性・多層性植栽
- 地域住民との合意形成



足羽川桜づつみ協議会

<目的> 学識経験者や関係団体、地区住民代表により、桜堤の実施計画案に対する意見や提案について協議を行う。



- 擁壁の高さの検討
- 多様性植栽の検討
- 維持管理体制の検討
- 桜の有効利用の検討
- その他の施設の検討

移植を基本にした案はできない

地元説明会・ワークショップ (沿川住民)

<目的> 地元住民に桜に関する情報を提供し、知識を深めてもらうとともに、広く意見を聞き計画に反映させる。

- ・ 道路幅の減少に反対
- ・ 高い擁壁は圧迫感があり反対
- ・ 清掃する住民の高齢化



アンケート・フォーラム (一般住民)

<目的> 一般住民に桜に関する情報を提供し、知識を深めてもらうとともに、広く意見を聞き計画に反映させる。

- ・ 桜並木の存続を望む
- ・ 新たな桜の若木の植栽を望む
- ・ 桜の種類を工夫し、長く楽しめると良い



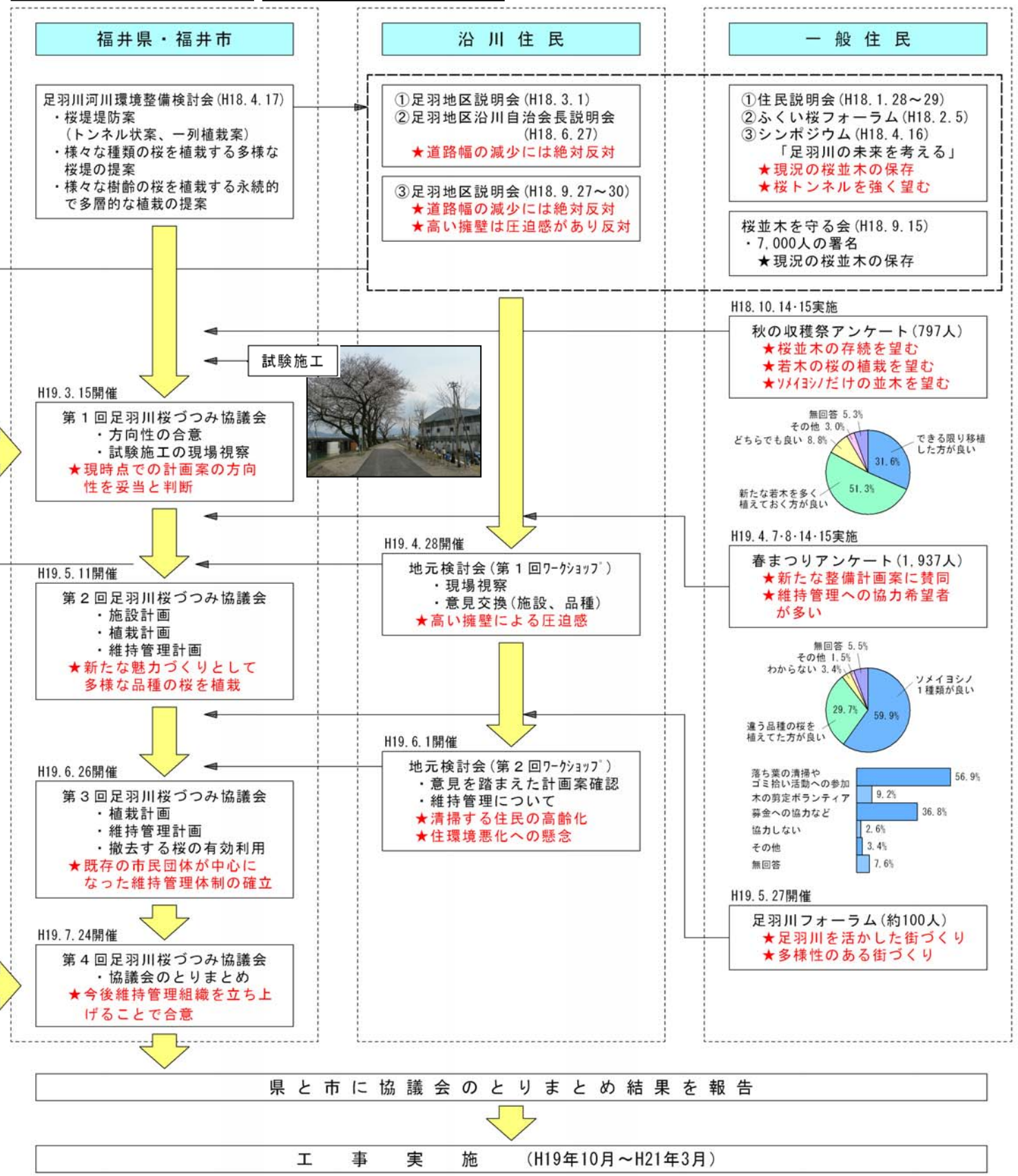
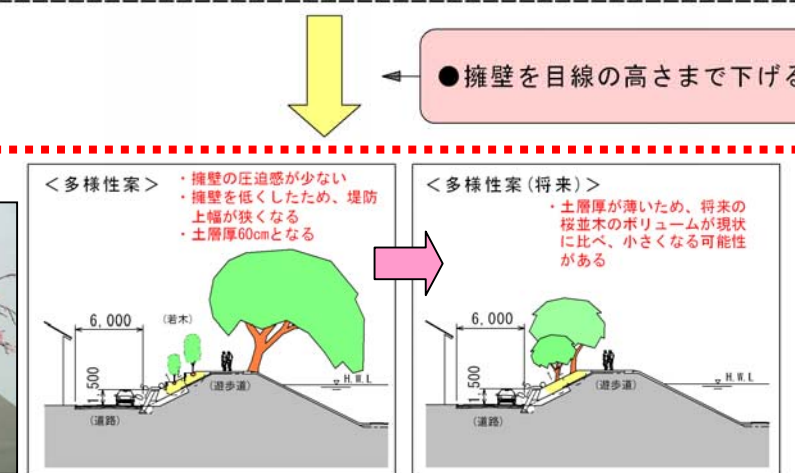
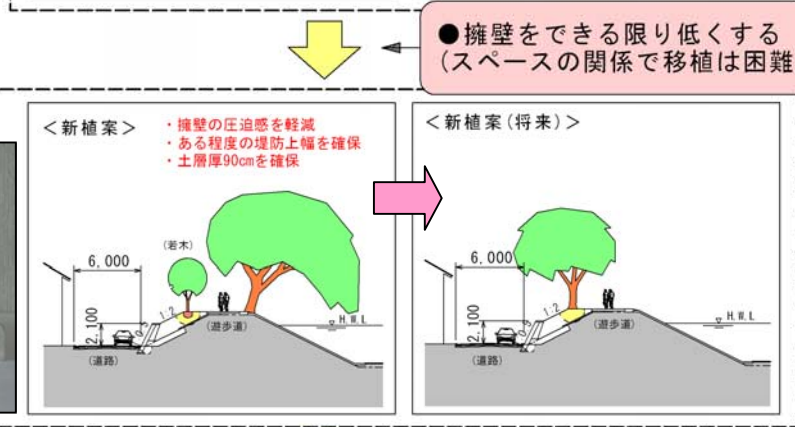
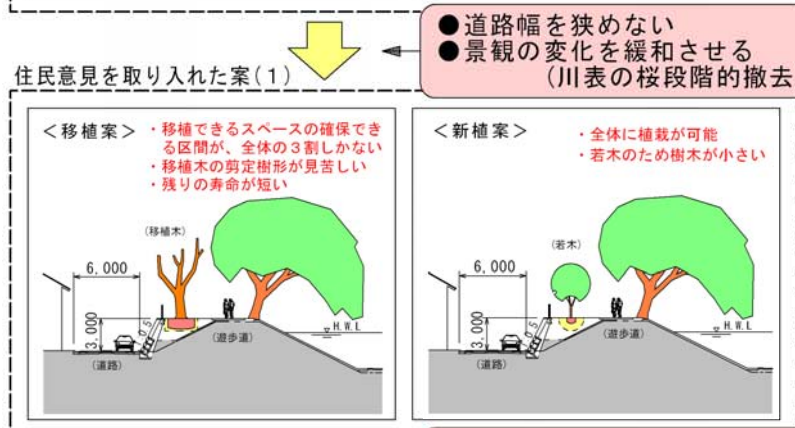
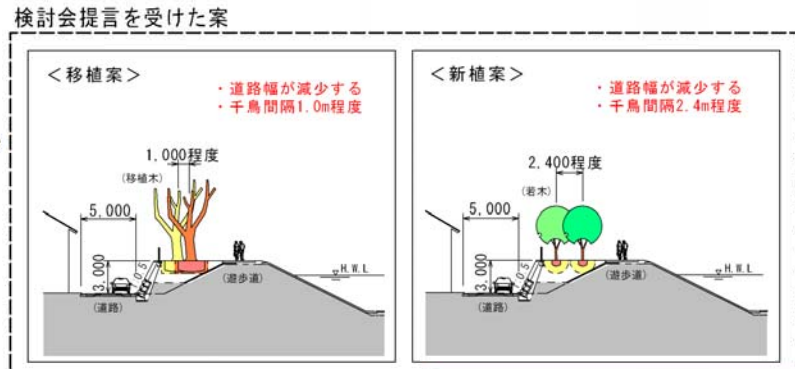
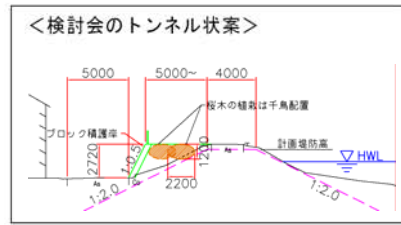
試験施工 (JR橋～木田橋)

<目的>

- ・ 移植木を含めた景観や新植した若木の状態を住民に見てもらう場を提供する。
- ・ 植栽工事における設計、施工上の課題を把握する。



1. 計画検討の経緯 (2)



2. 植栽計画について(1)

<基本方針>

豪華で観光的価値のある現在のソメイヨシノの良さを残すために、ソメイヨシノ系の桜で景観の骨格をつくり、桜トンネルに代わる新しい魅力として、多様性・多層性を考慮した植栽により、様々な種類の桜を長い期間楽しめるようにする。

<ゾーニング>

桜堤区間の新明里橋～木田橋を、イベントや観光の中心になっている花月橋～幸橋と、それ以外の区間に分類し、場の特性に配慮した植栽計画を行う。



多様性・多層性植栽

【川側】

現在の景観の骨格

既存：ソメイヨシノ 4月上旬開花



【住宅側】

将来の景観の骨格

新植：ソメイヨシノ系 (ヨウシュン・ジンダイアケボノ・コマツオトメ) 4月上旬開花

【住宅側法面】

開花期と植栽間隔

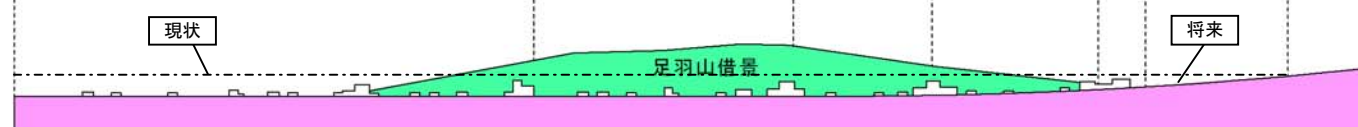
開花期・植栽間隔に変化をもたせる



【全体】

樹高

足羽山が借景となるように樹高を低くする

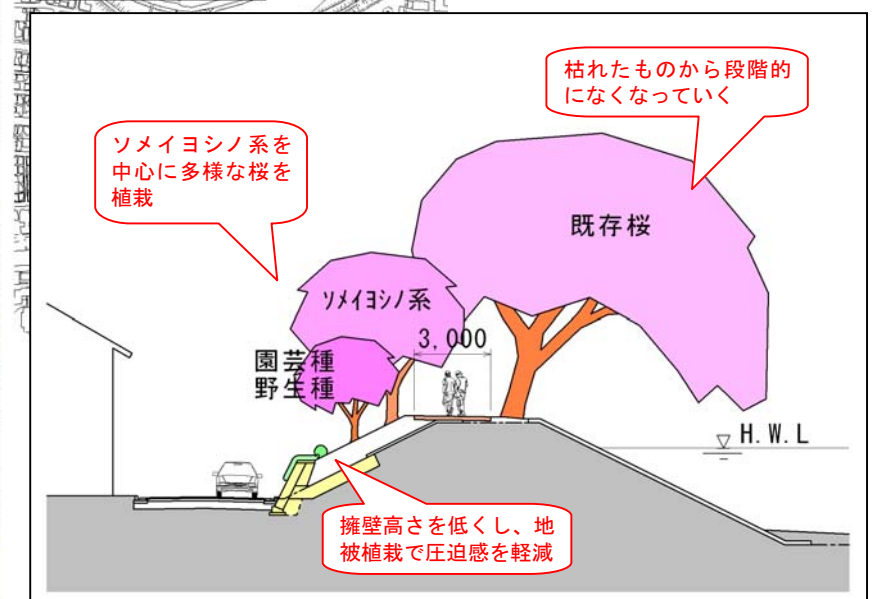


<幸橋～木田橋>

・開花の遅い園芸種を多く植栽して、長く花を観賞できるようにする。
・病害虫がやや少ないとされる野生種の割合を多くする。

・住宅側の植栽を厚くすることによって緩衝帯となり、沿川住民のプライバシーが確保できるメリットがある。
・土層厚が薄いため、将来の桜並木のボリュームが現状に比べ、小さくなる可能性がある。また、良く生長した場合には、強風に対する倒木対策として、樹冠の切詰めが必要になる。

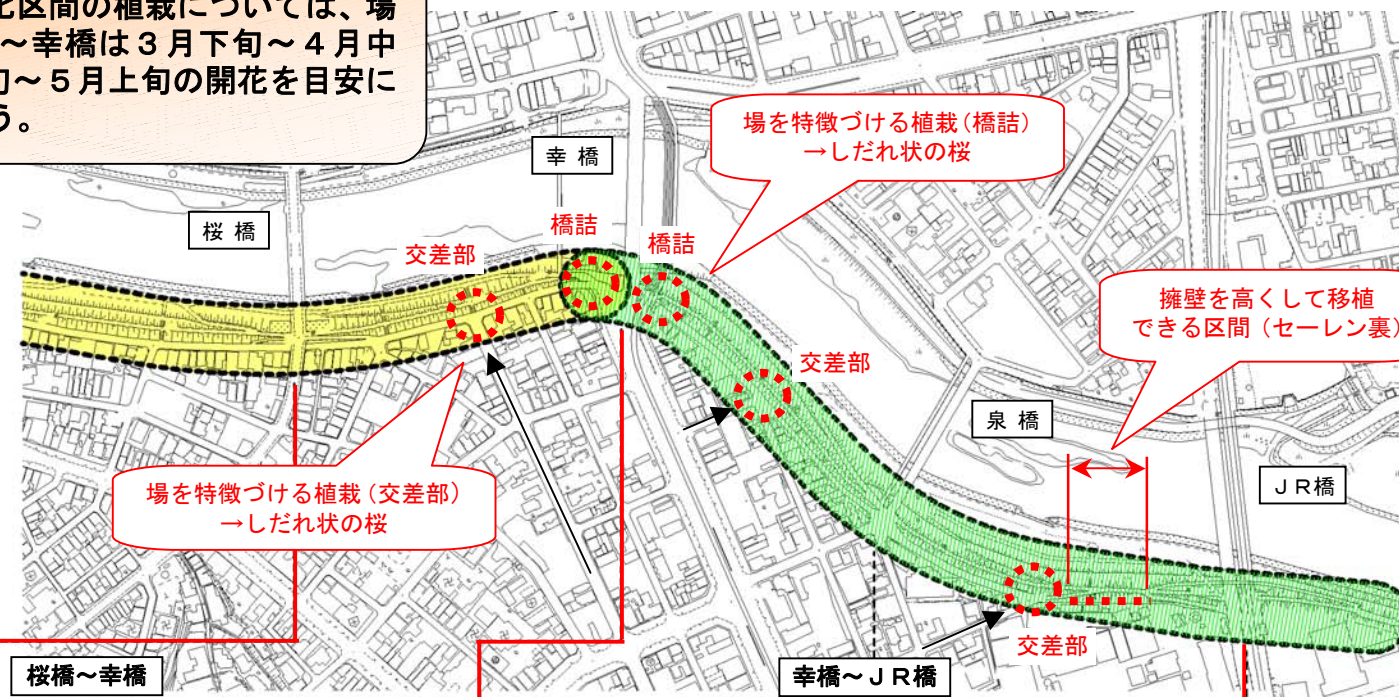
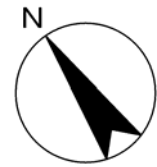
断面イメージ



2. 植栽計画について (2)

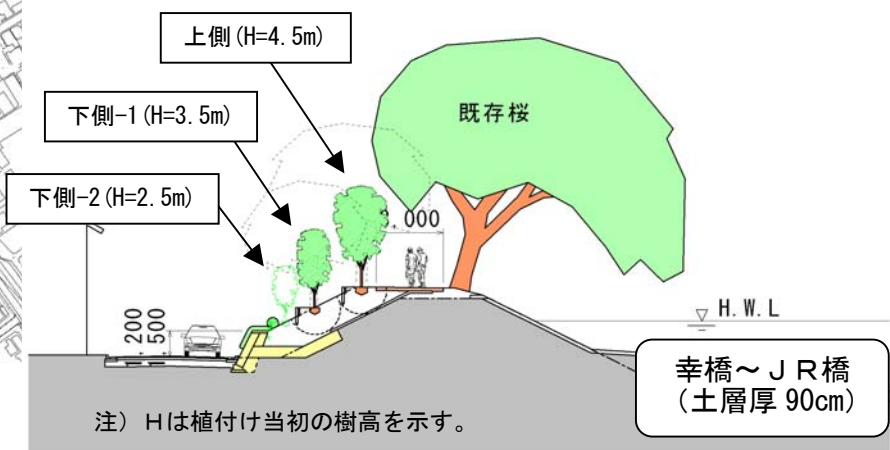
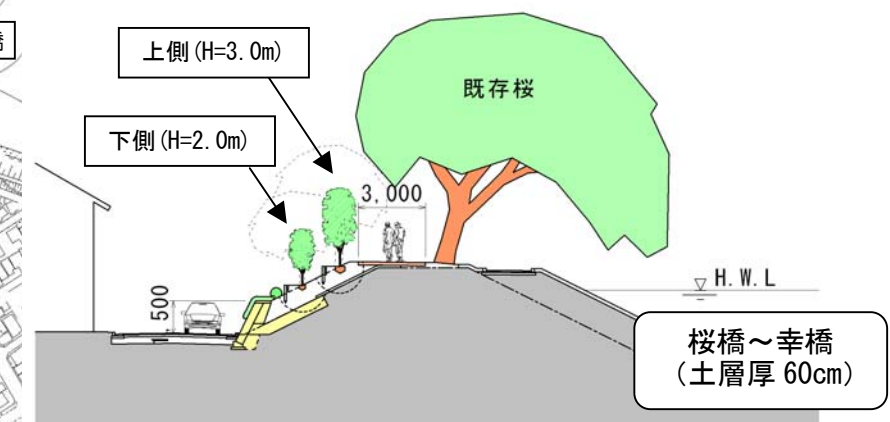
激特事業による堤防強化区間の植栽については、場の特性に配慮して、桜橋～幸橋は3月下旬～4月中旬、幸橋～泉橋は4月中旬～5月上旬の開花を目安にサトザクラ類の選定を行う。

試験施工の完成写真



桜の配植

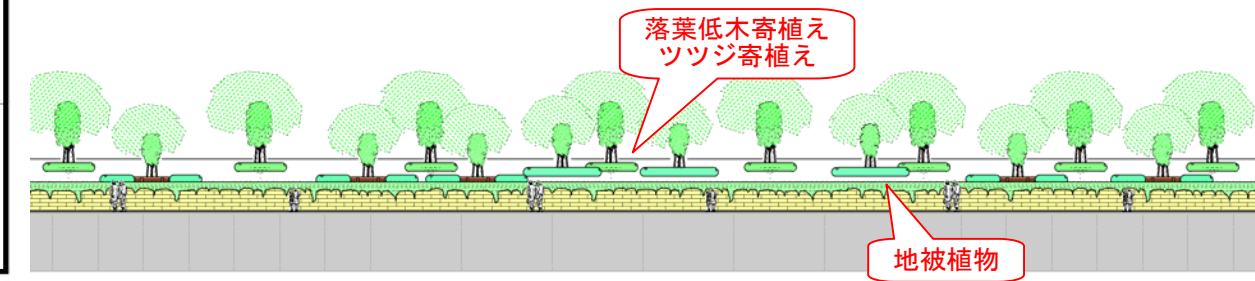
法面を全幅使って庭園をイメージした植栽とする。また、植付け時の大きさは日当たりを考慮して、法面上側ほど大きくなるようにする。



JR橋～木田橋
試験施工区間

低木の配植

変化をつけた低木の寄植えにより、庭園的な桜並木となる。また、この低木は道路への転落防止を兼ねる。



ソメイヨシノ系	ヨウシュン (4月上旬)	ジンダ イカボノ (4月上旬)	コマツオトメ (4月上旬)	
野生種	エドヒガン (3月下旬)	オオシマザクラ (3月中旬)	ヤマザクラ (4月上旬)	オオヤマザクラ (4月中旬)
園	ベニシダレ (3月下旬)	八重ベニシダレ (4月上旬)	ウジョウシダレ (4月上旬)	シダレザクラ (3月下旬)
芸	コシノヒガン (3月下旬)	オモイガワ (4月上旬)		
種	カワズザクラ (3月上旬)	カンヒザクラ (3月下旬)		
ヤマザクラ系	センダイヤ (4月上旬)	ケロウエンカマイ (4月中旬)	パゴジユカザクラ (4月下旬)	サノザクラ (4月中旬)
サトザクラ系	イチヨウ (4月中旬)	カンザン (4月下旬)	フゲンゾウ (4月下旬)	ギョイコウ (4月下旬)
			ウコン (4月下旬)	ケロウエンカマイ (4月下旬)

3. 施設計画について

激特事業による堤防強化区間の施設については、既存の休憩所やトイレ・階段等をできる限り活用するとともに、観光の中心ルートの一隅となる桜橋～幸橋をメインにして、ゾーニング計画との整合を図る。



幸橋完成イメージ



アスファルト舗装

維持管理が容易なアスファルト舗装を基本に考える



着色舗装

色つき舗装により景観に配慮する



擁壁（石積み）

石積みにて質感を高める



擁壁（ブロック積み）

同一のブロックにて統一感を出す



照明灯

ポール灯で夜間の照明を行う

桜橋

幸橋

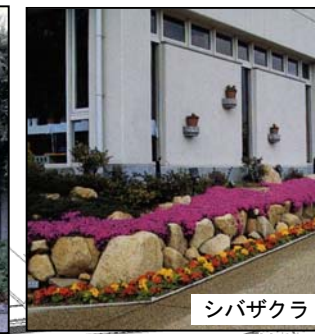


コトネアスター類の実



壁面の修景

コトネアスター類



シバザクラ



マツバギク

コトネアスター類、シバザクラ、マツバギク等を表面にはわす

<幸橋～JR橋>
既に整備された区間との調和を図り、統一感のある施設整備を目指す。

<桜橋～幸橋>
観光の中心ルートの一隅として、質の高い施設整備を目指す。



既設階段



改良済みの階段は極力使用する

改築階段



仕上げを揃えて統一感を出す

既設休憩所



既設の施設は極力使用する

既設トイレ



案内看板



トイレや桜 100 選等の案内看板でサービスの向上を図る

4. 景観変化のイメージ

植栽計画・施設計画をもとに創出する、新しい桜並木の早春の景観を、植栽1年後から将来にかけて、年数の経過とともにそのイメージを示す。

桜橋～幸橋（堤防下から望む）

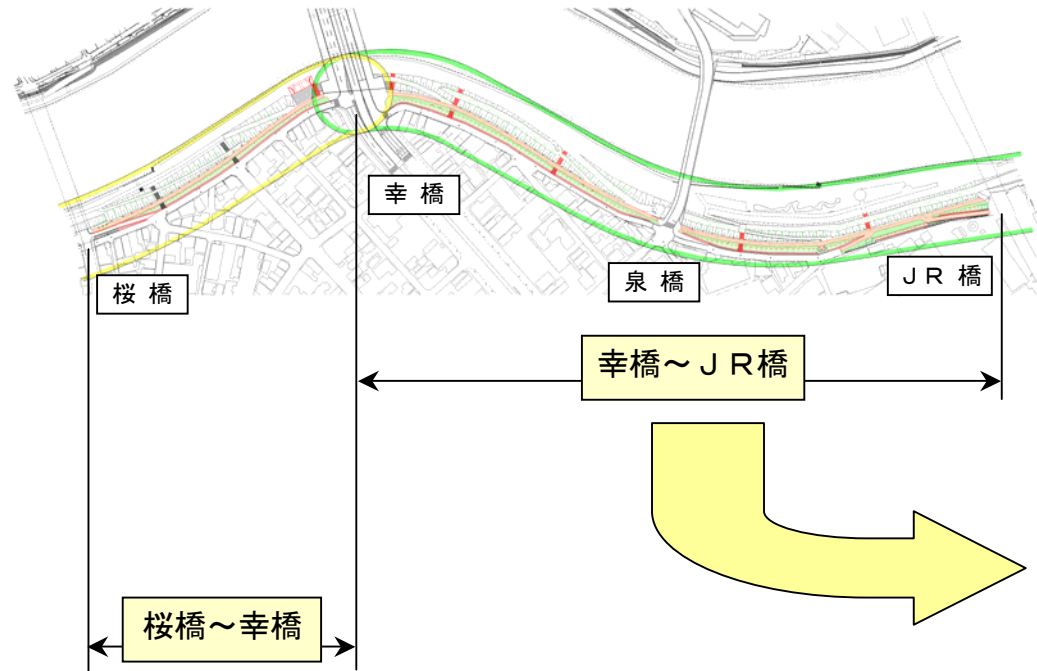


桜橋～幸橋（堤防上から望む）



5. 開花時期別のイメージ

植栽計画・施設計画をもとに創出する、新しい桜並木の春の景観を、4月上旬から下旬にかけて、開花時期の変化とともにそのイメージを示す。



幸橋～JR橋
(道路側の正面から望む)



植栽10年後想定

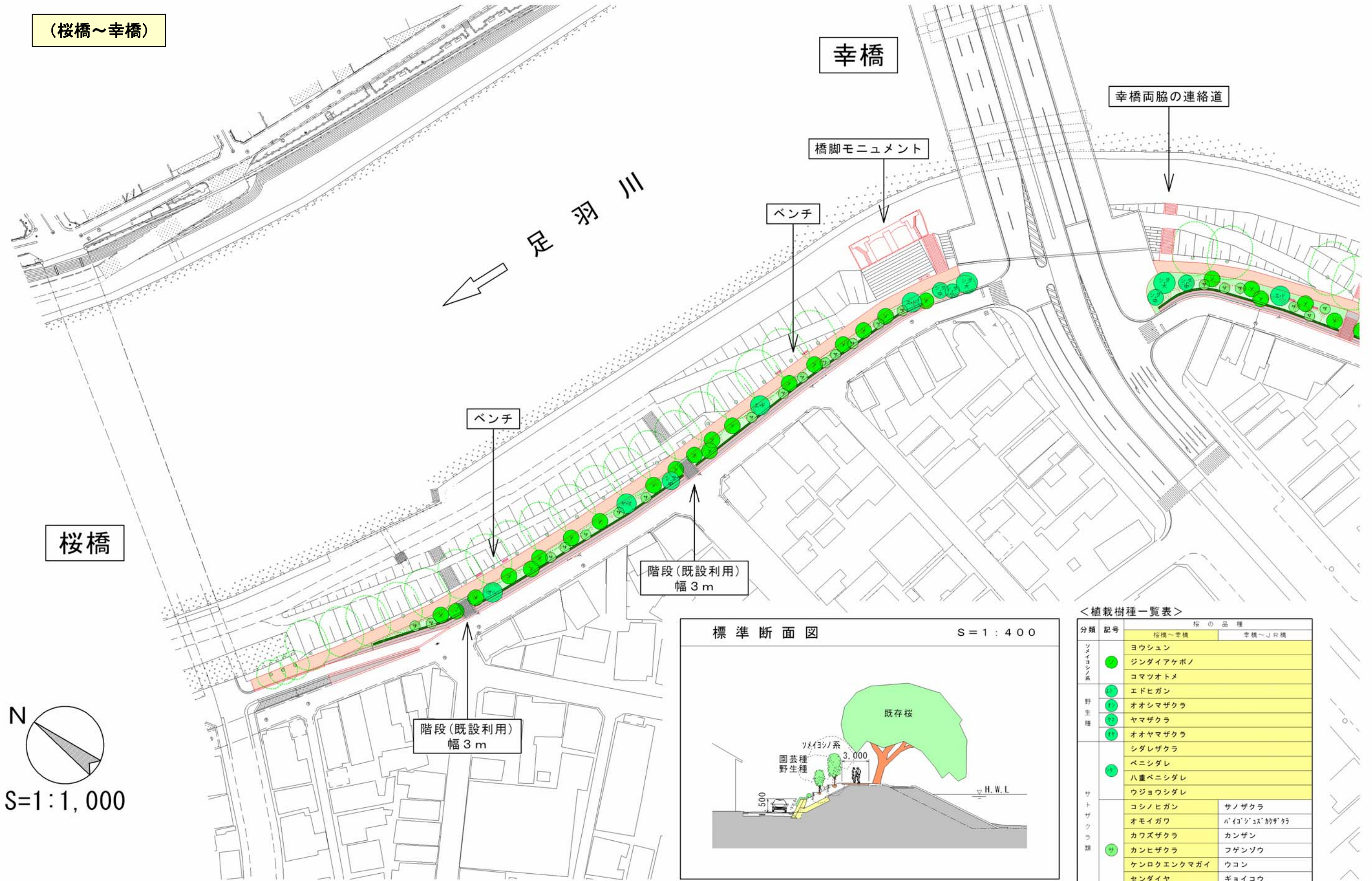
桜橋～幸橋
(道路側の正面から望む)



植栽10年後想定

6. 配置計画 (案)

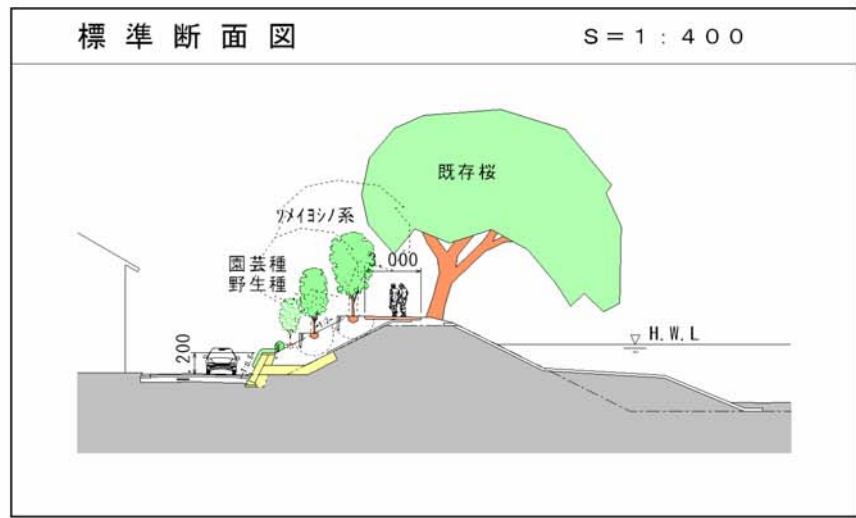
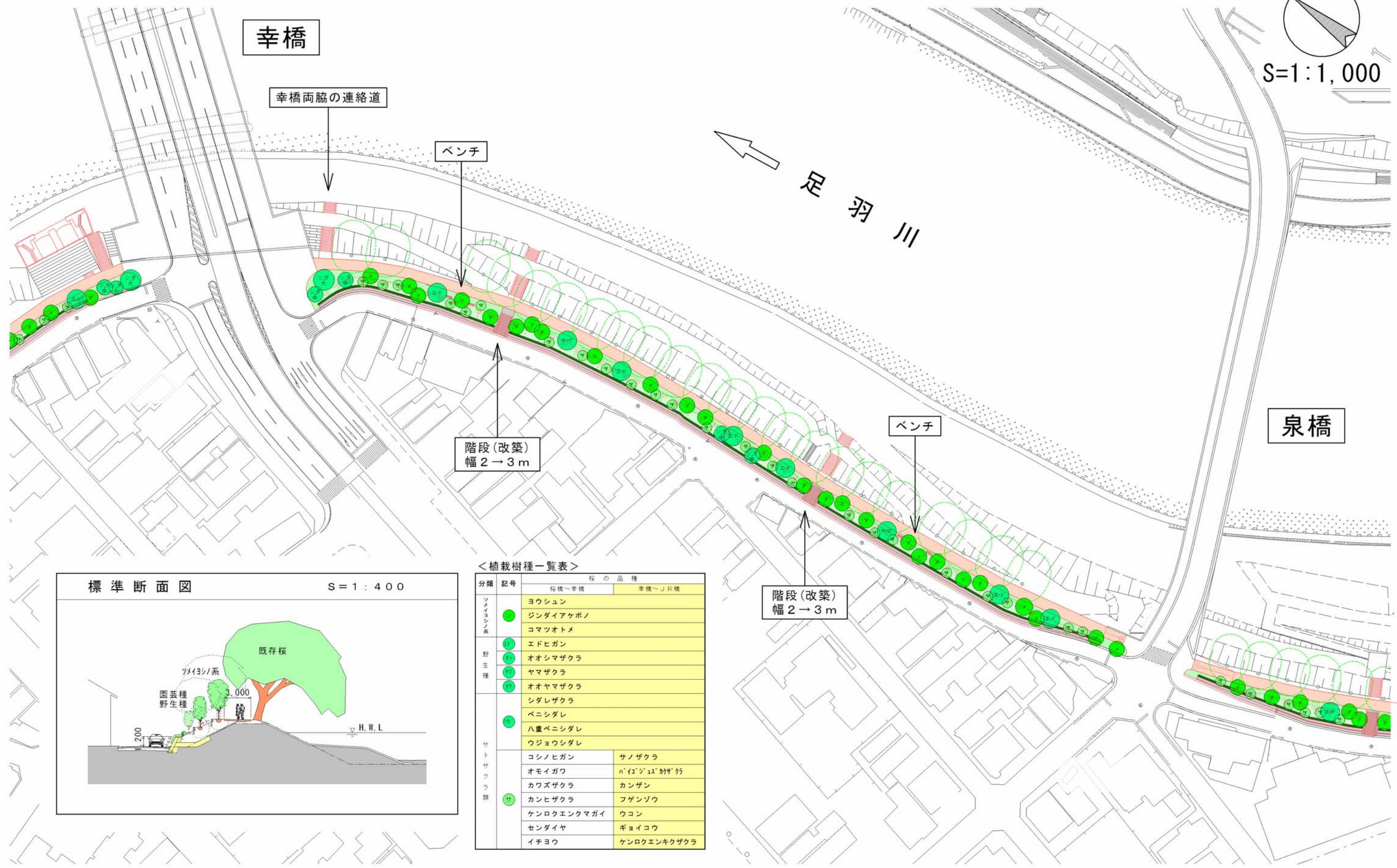
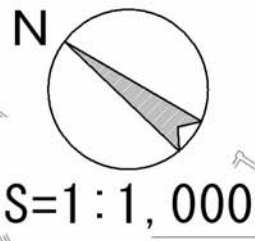
(桜橋～幸橋)



<植栽樹種一覧表>

分類	記号	桜の品種	
		桜橋～幸橋	幸橋～JR橋
ソメイヨシノ系	●	ヨウシュン	
	●	ジンダイアケボノ	
	●	コマツオトメ	
野生種	●	エドヒガン	
	●	オオシマザクラ	
	●	ヤマザクラ	
	●	オオヤマザクラ	
サトザクラ類	●	シダレザクラ	
	●	ベニシダレ	
	●	八重ベニシダレ	
	●	ウジョウシダレ	
	●	コシノヒガン	サノザクラ
	●	オモイガワ	ハイ'シユ'ルザクラ
	●	カワズザクラ	カンザン
	●	カンヒザクラ	フゲンソウ
	●	ケンロクエンクマガイ	ウコン
	●	センダイヤ	ギョイコウ
●	イチヨウ	ケンロクエンキクザクラ	

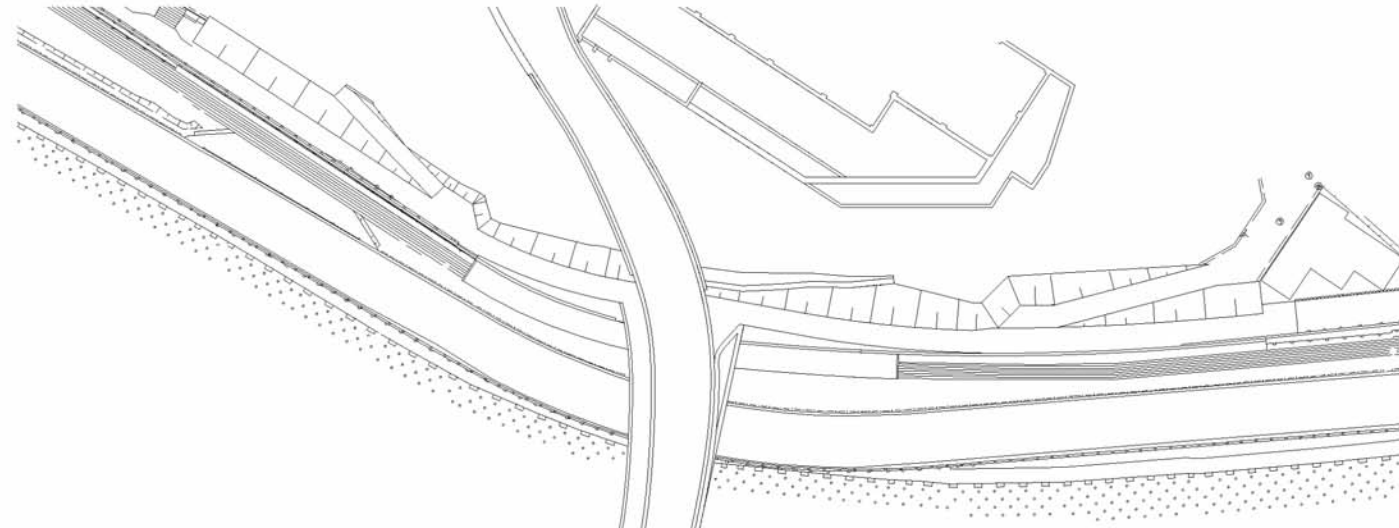
(幸橋～泉橋)



<植栽樹種一覧表>

分類	記号	桜の品種	
		桜橋～幸橋	幸橋～JR橋
ソメイヨシノ系	●	ヨウシュン	
	●	ジンダイアケボノ	
	●	コマツオトメ	
野生種	●	エドヒガン	
	●	オオシマザクラ	
	●	ヤマザクラ	
	●	オオヤマザクラ	
	●	シダレザクラ	
サトザクラ類	●	ベニシダレ	
	●	八重ベニシダレ	
	●	ウジョウシダレ	
	●	コシノヒガン	サノザクラ
	●	オモイガワ	ハ'イ'ジュ' 耐ザ'ク'ラ
	●	カワズザクラ	カンザン
	●	カンヒザクラ	フゲンゾウ
	●	ケンロクエンクマガイ	ウコン
	●	センダイヤ	ギョイコウ
	●	イチヨウ	ケンロクエンキクザクラ

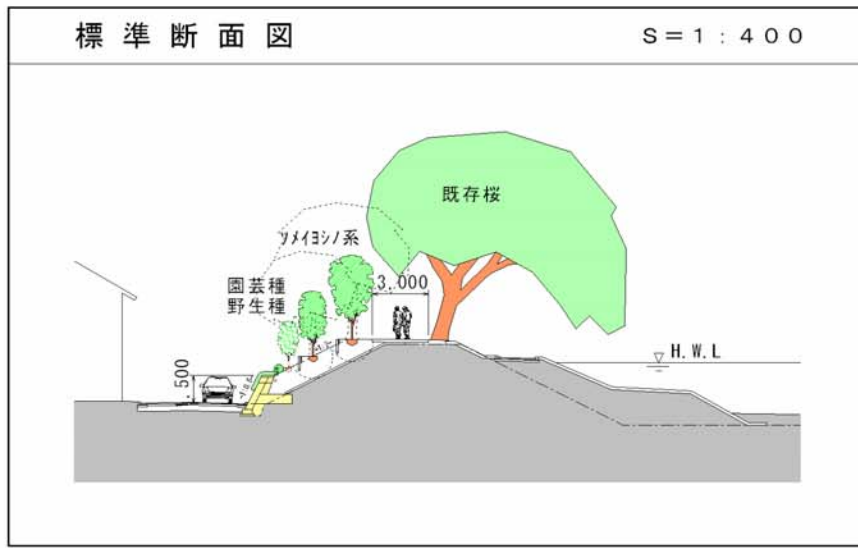
(泉橋～JR橋)



泉橋

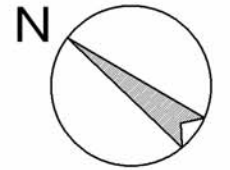
JR橋

← 足羽川

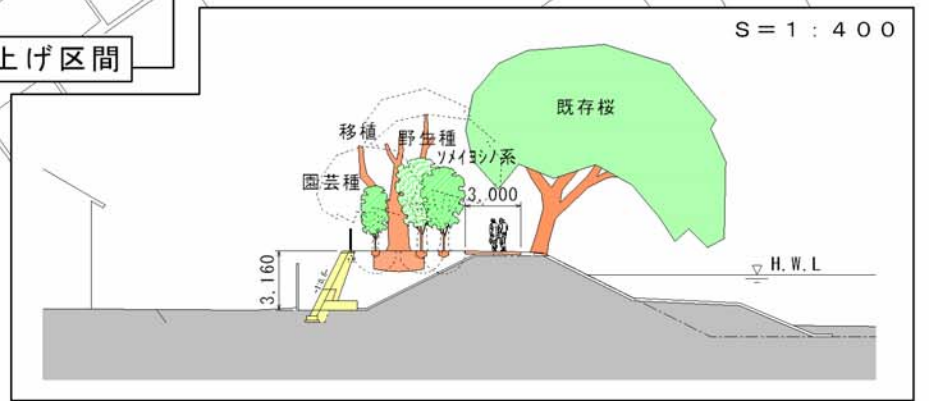


<植栽樹種一覧表>

分類	記号	桜の品種	
		桜橋～幸橋	幸橋～JR橋
ソメイヨシノ系	●	ヨウシュン	
	●	ジンダイアケボノ	
	●	コマツオトメ	
野生種	●	エドヒガン	
	●	オオシマザクラ	
	●	ヤマザクラ	
	●	オオヤマザクラ	
サトザクラ類	●	シダレザクラ	
	●	ベニシダレ	
	●	八重ベニシダレ	
	●	ウジョウシダレ	
	●	コシノヒガン	サノザクラ
	●	オモイガワ	ハコ'ジュ'サザ'クラ
	●	カワズザクラ	カンザン
	●	カンヒザクラ	フゲンゾウ
	●	ケンロクエンクマガイ	ウコン
	●	センダイヤ	ギョイコウ
●	イチヨウ	ケンロクエンキクザクラ	



S=1:1,000



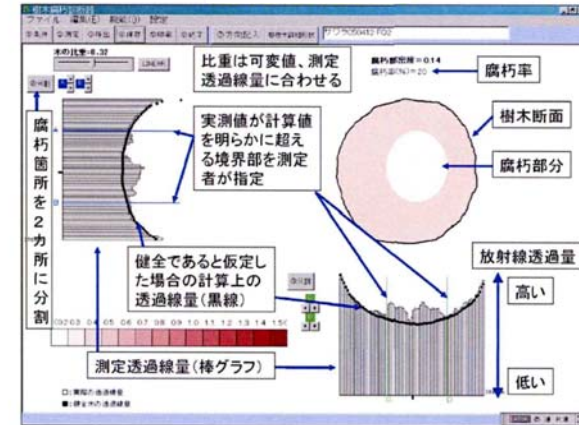
7. 維持管理について (1)

桜堤の現状としては、市や地域のシンボリックな桜である反面、桜が堤防に与える悪影響や樹齢に伴う桜の老木化の問題がある。また、管理面では沿川住民の高齢化により、今までのような清掃活動が難しい状態になりつつある。

<市や地域のシンボリックな桜>
足羽川の桜並木は、福井市のまちづくりにとって、また足羽地区においても地域のシンボリックなものとして重要であり、市民の関心の高いものである。



<桜の老木化>
足羽川の桜並木は樹齢55年程度のため、老木化が進み、目視で空洞化が解るものもある。また、γ線による腐朽調査からは、外観上健全な桜でもほとんどが空洞化し、健全なものは2割弱しかない状態であった。



<桜の堤防に及ぼす影響>
桜が堤防に与える悪影響として、根による堤防内への浸透の助長、倒木による堤防の損傷、流木衝突による堤防の損傷等があげられる。

堤防上の桜が及ぼす悪影響

倒木による堤防の損傷



<管理に対する住民意識>
沿川地区では住民の高齢化により、現状の清掃活動の維持も困難になりつつある。しかし、春まつりアンケートでは、維持管理に協力できる希望者が多数いることが確認できた。

現状の管理分担と今後発生する管理

凡例
+ 管理数量が増える
- 管理数量が減る
±0 変わらない

管理名称	作業項目(現状及び整備後発生する管理)	福井県	福井市	沿川住民	一般市民ボランティア	整備に伴う数量変化	老木化に伴う数量変化
除草	堤防の草刈り [川側]	○				±0	
	[住宅側]	○				-	
施肥	既存木への活力剤投入		○			-	
	新植木施肥					+	
害虫対策	薬剤散布		○			-	
病害対策	切除(てんぐ巣病)					±0	
剪定	既存木 影響のある枝の伐採		○			-	
	既存木 ひこばえ・胴吹き処理					-	
	新植木 整枝・剪定					+	
	新植木 ひこばえ・胴吹き処理					+	
	低木刈り込み					+	
枯損木処理	伐採・撤去(整備後は除根含む)		○			-	+
	折れた枝の除去		○			-	
清掃	落花・萼・落葉			○		-	
	ゴミ			○	○	±0	
	毛虫糞			○		-	
連絡	被害状況の連絡			○		-	
調査	樹木調査・腐朽調査					-	+
	樹木調査カルテ管理					-	+

7. 維持管理について (2)

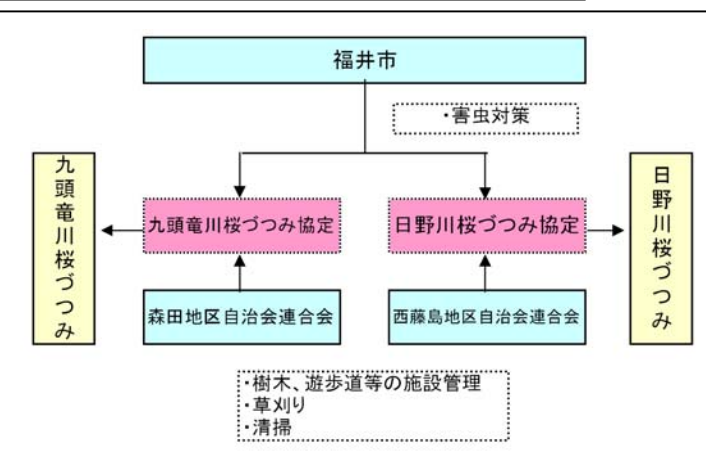
堤防の安全性を確保しながら桜並木を保全・育成していくためには、官民協働による維持管理体制の構築が必要である。

協議会での意見

- 組織面について
 - ・これまで足羽川や足羽山に関わっていた団体が中心となる必要がある。
 - ・新たなネットワーク組織を立ち上げる。
 - ・日本一の桜を目指したプライドある組織づくりが必要である。
 - ・ボランティア活動のデータベース化が必要である。
- 活動面について
 - ・樹木医に関心の持てるような活動を取り上げてはどうか。
 - ・子供会にも話を持っていき関心を高める方法がある。
 - ・シルバー人材センターに協力してもらえないか。
 - ・ボランティアは足羽川全体を楽しむ活動の中で考えていく必要がある。
 - ・中学校、高校に協力してもらいたい。
 - ・桜の管理に関するPRを行う。
 - ・ポイント制を導入して、ボランティアの参加意識を高める。
 - ・桜学を企画してはどうか。
 - ・共同花壇をきっかけにみんなで作ることから始めてはどうか。
- 運営面について
 - ・民間主体の運営で行う方がよい。
 - ・足羽川利用者から利用料を集めてはどうか。



福井市の桜づつみ管理体制 (他事例)



桜堤の現状からの整理

- ① 市や地域のシンボリックな桜 → 持続可能な管理体制の構築が必要である。
- ② 桜の堤防に及ぼす影響 桜の老木化 → 堤防の安全性を確保するためにも、十分な桜管理を行う必要がある。
- ③ 管理に対する住民意識 → 沿川住民の高齢化等から、従来の行政と沿川の管理以外に、一般住民の協力が必要になっている。

取組み方針

- ① 官民協働による管理体制の構築
健全な桜堤保全のため、市民と行政が協力して維持管理にあたる体制を整備する。
- ② 維持管理費財源の確保
健全な桜並木保全のため、桜に関するPRを通して関心を高め、市民や企業からの費用面での協力を促す。

維持管理体制

新しい組織

<方針>

- 官民協働による桜の維持管理
- 住民参加の積極的な促進

足羽地区
自治会連合会

- ・落葉清掃
- ・花壇管理 等

NPO
一般住民

- ・一斉清掃
- ・低木剪定
- ・施肥作業 等

行政

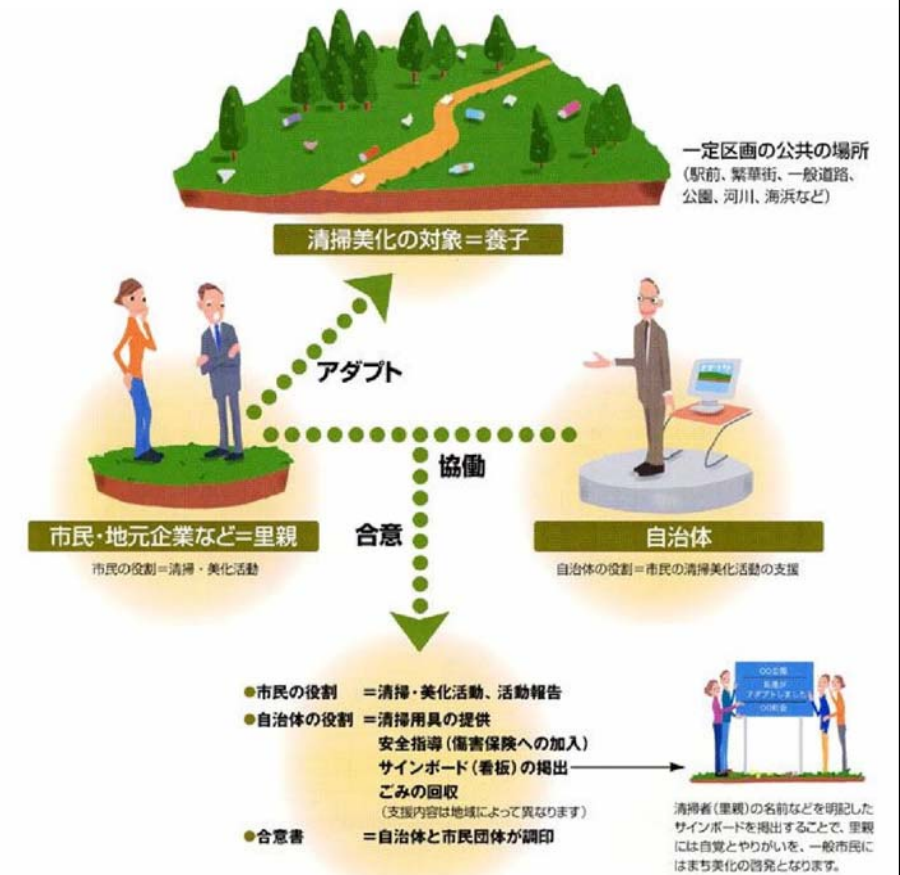
- ・草刈り
- ・薬剤散布
- ・施肥 等

今後の維持管理体制づくり(例)

事例

アダプト・プログラムイメージ

((社)食品容器環境美化協会HPより)

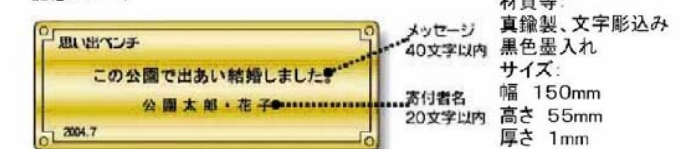


思い出ベンチイメージ

(東京都建設局HPより)



記念プレート



さくら貯金箱イメージ

(横浜市南区HPより)



8. 撤去する桜の有効利用について

長年に渡って市民に親しまれてきた桜であるため、撤去して処分する前に、できるだけ木を活かした利用計画を進めていく。

用途	内容		備考	有効利用計画	参考写真
	分類	具体案			
植栽	移植木として利用	<p><移植場所> 学校・幼稚園 公園（フェニックスパーク・足羽山等） 他の河川（九頭竜川・日野川） 県庁のお堀・県農業試験場 病院・福祉施設（老人ホーム） 個人企業・市民からの公募</p> <p><方法> ネットオークション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹形の悪さや残りの寿命を考慮した場合、多額の費用をかけて行う価値があるか疑問が残る。 ・移植場所の確保に課題がある。 	<p>① 腐朽調査を実施し、移植可能な樹木を把握する。</p> <p>↓</p> <p>② 公共の移植場所を検討する。（日野川と九頭竜川の桜堤等）</p> <p>↓</p> <p>③ 民間での移植公募を検討する。</p>	<p>移植利用</p> 
	苗木づくりに利用	挿し木での苗木づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ソメイヨシノの挿し木で成功した例がない。 		
木材	製材加工して利用	ベンチ・テーブル・遊具 文房具（鉛筆等）・家具・太鼓 衝立や台・ランマ（根の部分）	<ul style="list-style-type: none"> ・サクラ材はヤマザクラが一般的で、ソメイヨシノの使用例はない。但し、ベンチの床材やスツールへの利用は可能であると考えられる。 ・屋外の場合、加工品の品質確保のため、防腐処理の試験が必要である。 	<p>① ベンチ等の利用を検討する。</p> <p>↓</p> <p>② 民間での木材公募を検討する。</p>	<p>ベンチ利用</p> 
	クラフト材として利用	箸・割り箸・箸置き 積み木・コマ・木箱・額 アート材（彫刻） 箸・しおり等の記念品販売			<p>アート材利用</p> 
	染色材として利用	桜染め（特に小枝がうまくいく）			<p>木工芸材利用</p> 
	燃料として利用	ストーブの薪・炭等 足羽川の桜をブランドとした薪の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・愛好家の間で薪の要望がある。 		<p>染色材利用</p> 
チップ材	舗装材として利用	遊歩道の舗装材	<ul style="list-style-type: none"> ・チップ加工すれば利用が可能であるが、腐朽菌により桜に影響を及ぼす可能性が高い。 	<p>① 移植や木材としての利用がないものは、専門の業者に引き取ってもらう。</p>	<p>「桜あそび」岡村比都美著より</p>
	マルチング材として利用	木の根元の乾燥防止材			<p>横浜市南区HPより</p>
	スモーク材として利用	食品の薫製材	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に様々な桜を混ぜて利用している。 		<p>薪材利用</p> 
	製紙用材として利用	専門の会社が引き取る（処分費必要）			<p>チップ材利用</p> 

9. 今後に向けて

桜堤の今後の方向性として、維持管理組織の設立、激特事業以外の桜堤整備の継続的な実施、桜とまちづくりとの一体化について、これからの取り組みを期待する。

維持管理組織の設立

新しい維持管理の組織は足羽川や足羽山等の周辺地域も含めたもので考え、より多くの人々が積極的に関わっていただけるものが望ましい。



桜堤整備の継続実施

激特事業による整備区間以外の桜堤についても、将来とも桜並木が残せるようにするため、引き続き検討を行っていく必要がある。

整備時期としては、川側の桜が残っている間に、住宅側を整備していくことが望ましい。



まちづくりとの一体化

桜堤の整備だけに留まらず、足羽山の桜や福井城址の桜など、市街地の桜を活かしたまちづくりとして考えていくことが望ましい。

